

お客さまとともに進めるエネルギーの最適利用

SDGsラジオを読んでみよう！

時代が進むにつれて、家庭で使うガスや電気の量は増え、毎日大量に発生する温室効果ガスは環境に深刻な影響を与えています。

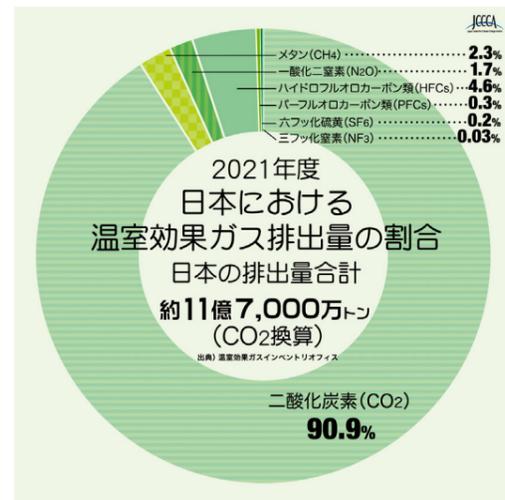
そこで、大阪ガスでは、「家庭用燃料電池」の普及を進めています。

この家庭用燃料電池とは、ガスに含まれる水素と空気中の酸素を化学反応させて電気を作り、発電時に発生した熱でお湯を沸かすシステムのことです。従来と比べて二酸化炭素の排出量をなんと約50%も減らすことができます。

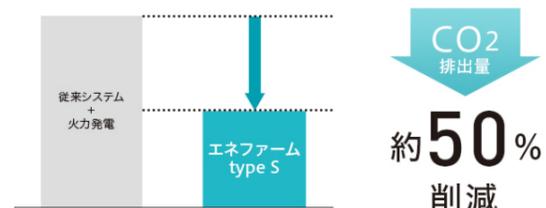
自宅で発電をしたり、酸素や水素を燃料に使ったり、今、私たちの生活は大きく変わろうとしています。

うちの電気やガスってどうなっているの？と思った方は、おうちに帰ったら、少し調べてみませんか。

SDGsラジオの内容を、もっと詳しく知ろう！



出典：温室効果ガスインベントリオフィス



画像参照：大阪ガス 環境性 CO₂排出量比較

「温室効果ガス」とは、大気中の熱を吸収する性質のあるガスの総称で、二酸化炭素やメタンがその代表です。温室効果ガスには太陽から放出される熱を地球に閉じ込め、地表を温める働きがあります。これにより地球の平均気温は約14℃に保たれ、気象庁によれば、もしも地球上から温室効果ガスがなくなると、「地球の表面温度はマイナス19℃になる」とわれています。したがって、温室効果ガス自体は地球にとってなくてはならないものです。ところが、18世紀後半頃から、人類は生活や産業活動のために、石炭・石油・ガスなどの燃料を大量に消費するようになっていきました。それにより大気中にある二酸化炭素の濃度が増加したため温室効果が高まり、地球の平均気温が少しずつ上昇していくという結果をもたらしています。これが「地球温暖化」です。

日本における温室効果ガスの種類別排出量の割合は、二酸化炭素が全体の9割以上を占め、地球温暖化の最大の原因となっています。そこで大阪ガスでは、温室効果ガスの中でも地球温暖化への影響度が最も大きい二酸化炭素排出を削減するため、「エネファーム」という家庭用燃料電池コージェネレーションシステムを導入し、これにより従来のシステムと比較して、二酸化炭素の排出量を約50%も削減できるようになりました。

キーワード

メタン

二酸化炭素に次いで地球温暖化に及ぼす影響が大きい温室効果ガス。発生源として、天然ガスの採掘のほか、牛など家畜のゲップからもメタンが排出されています。

エネファーム

「エネルギー」と「ファーム(農場)」を組み合わせで名付けられた、家庭で電気とお湯を同時につくり出す家庭用燃料電池のこと。家庭用燃料電池の認知向上を推進するため、企業を越えた統一名称として使用されています。

コージェネレーション

燃料電池等の発電時に生じる廃熱(使用されない余分な熱)を冷暖房や給湯などに利用することで、電気と熱を無駄なく利用できるエネルギー供給システムのことです。

対象ゴール



みなさんにできること！

地球温暖化の原因となる「二酸化炭素」の発生を低減する方法を考えていきましょう！

- 「温室効果ガス」の増加により、地球の平均気温が少しずつ上昇している。
- 温室効果ガスの種類別排出量の割合は、二酸化炭素が全体の9割以上を占める。
- 「家庭用燃料電池」により二酸化炭素の排出量を約50%も削減できる。

メモ

